

|      |                               |                                                                                                                              |     |                      |
|------|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------|
| 校訓   | 友 勤 自<br>愛 勉 治                |  <b>令和7年度</b><br><b>東中だより</b><br><b>第8号</b> | 発行日 | 令和7年9月26日            |
| 教育目標 | 多様化の時代を生きる<br>心身ともにたくましい生徒の育成 |                                                                                                                              | 発行者 | 伊丹市立東中学校<br>校長 前田 徳三 |

## 【体育大会】

熱中症警戒アラートが7月には23日間、8月には25日間発令され、屋外での活動が制限しなければいけませんでした。しかし、暑さ寒さも彼岸までとは言いますが、最近朝晩が涼しくなり、ようやく秋の気配を感じるようになりました。

子どもたちは、9月30日（火）〔雨天時は順延〕の体育大会に向けて、汗を流しながら、生徒会や各委員、演技のリーダーが中心となって、体育大会がよりよいものとなるように取り組んでいます。とても、すばらしく、頼もしく、本校の子どもたちを誇りに思います。

今年度の体育大会のスローガンは『羽持真輝（はちまき）』です。これは、子どもたちが、自分なりの羽（はちまき）を持って、どこまでも真に輝くという意味が込められているそうです。体育大会では、このスローガンのように、最高の演技、競技を行ってくれるものと期待しています。



また、保護者や地域のみなさま方に、子どもたちのはつらつとした姿を見てもらい、称賛していただけることは、子どもたちはもちろん、私たち教職員にとっても無上の喜びです。子どもたちの活気に触れていただき、保護者や地域のみなさんの満面の笑みは地域の宝であり、学校の財産にもなります。是非、体育大会にお越しいただき、子どもたちの競技、演技に対して、温かな声援や拍手をお願いいたします。

### ＜体育大会のお願い＞

- ・子どもたちの登校の安全を確保するために、保護者の入場は、生徒の入場後の8時45分頃を目途にお願いします。
- ・敷物を引いての場所取りはご遠慮ください。長時間その場を離れていると判断した場合、撤去する可能性がありますのでご了承ください。
- ・警備の都合上、出入りは正門のみとさせていただきます。（南門は開いていません）

## 【米百俵の精神】

2013年にオックスフォード大学のオズボーン氏が、『雇用の未来』と題する論文を発表しました。そこには、今後10～20年程度でアメリカの総雇用者の約47%の仕事が自動化される可能性が高いと分析していました。今後、さらにAIが進歩すれば、銀行員や一般事務、運転手などの仕事がなくなると言われています。一方、医師、看護師、教師や保育士、カウンセラーなどの仕事は残る可能性が高いと言われています。

このような変化の激しい時代に、時代を超えて生きていけるのは『学ぶ力』です。何か問題があったとき、正しい判断や行動ができるようになるために学ぶことは大切なことです。人に言われた通りに、ただするのではなく、自分の行動を自分の意思で決定できるようにしてもらいたいと思います。また、自ら学び考え、行動する力が育まれることでより自由に、そして、幸せにいきられるのではないのでしょうか。

それは今も昔も変わりません。『米百俵の精神』という話があります。幕末の戊辰戦争に敗れ、焼け野原となった長岡（現：新潟県長岡市）において、「国が興るのも、町が栄えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ、学校を建て、人物を養成するのだ」と教育第一主義を唱え、三根山藩からの救援された米百俵をもとに、学校を設立して多くの人材を育てました。そして、「時勢に遅れないよう、時代の要請に応える学問や芸術を教え、すぐれた人材を育成しよう」という理想を掲げ、その実現に向けて動き出しました。明治2年（1869年）に、戦火を免れた四郎丸村（現：長岡市四郎丸）の昌福寺の本堂を借りて学校を開校し、子どもたちに「素読」（論語などの読み方）を教えました。

小林虎三郎は、この百俵の米は文武両道に必要な書籍、器具の購入に充てるとして米百俵を売却して、その代金を学校の資金に注ぎ込みました。学校では、小林虎三郎の教育方針が貫かれ、生徒一人ひとりの才能を伸ばし、情操を高める教育がなされました。後年、長岡から未来の日本を背負う多くの人物が輩出されました。東京帝国大学総長の小野塚喜平次氏、海軍の山本五十六元帥などがいます。



また、山本有三の大ベストセラーとなった戯曲＜米百俵＞の中で、虎三郎は「早く、米を分けろ」といきり立つ藩士たちに向かってこう語りかけました。「この米を、一日か二日で食いつぶしてあとに何が残るのだ。国が興るのも、滅びるのも、町が栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。……この百俵の米をもとにして、学校を建てたい。この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には一万俵になるか、百万俵になるか、はかりしれないものがある。いや、米俵などでは、見つめられない尊いものになるのだ。その日暮らしては、長岡は立ちあがれないぞ。新しい日本は生まれないぞ……」。教育とは「米百俵」の精神による未来への先行投資の最たるもので、人づくりは、地域づくりに繋がり、国づくりにもなります。これからの日本が世界で存在感を保ち続けるためには、人を育てることが何よりも大切であると考えます。

本校においては、学力を「学ぶ力」として捉え、主体的に学ぶことができる子どもの育成を目指した研修に取り組んでいます。また、不断の授業改善によって、確実に授業力は高まってきていると感じます。今後とも、学校と家庭、地域が連携して未来を担う子どもたちを育ててまいりましょう。

## 【ご家庭で話し合ってください】

＜問題＞ 絵などを描かず、言葉で相手にわかりやすく説明してください。

14 人の子どもが並んでいます。琴音さんの前に7人の子どもがいます。琴音さんの後ろには何人にいますか。（※7人ではありません）